

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23 年 10 月 1 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100165		
法人名	医療法人 好 縁 会		
事業所名	グループホームふれあい段原		
所在地	〒732-0819 広島市南区段原山崎3丁目6-1		
自己評価作成日	平成23年9月30日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3490100165&SCD=320
------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成23年10月19日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>好縁会生活づくり10カ条を主軸とし、その人らしく、又、その人らしい生活を支援しています。地域交流と個別支援に力をいれ、選挙参加・お墓参り・馴染みの場所・人との接点をサポートしています。</p> <p>その方が、人生史に思いをはせていただけるよう、寄り添いのケアに努めています。マイスター制度や研修制度の充実により職員の知識と技術の向上を目指している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>法人の理念の基に、事業所として毎年の事業方針を作成し、職員は達成するために各自の目標を設定し努力している。職員は入居者の支援の際には、常に「生活づくり10カ条」を思い起こし、その人らしく生活することを支援している。入居者の今までの生活や思い出を大事にし、心に秘めた思いや要望に気付いた職員は「発見シート」に書き取り、職員全員で共有し、思いを実現するように努めている。家族の墓参り、馴染みの場所での食事、孫の運動会の見学などの支援を行ってきている。日常的な外出支援以外に、1泊旅行や年に数回の遠出の外出など、入居者に楽しんでもらう支援を行っている。職員は明るく対応し、ホームの中は清潔に保たれていて、入居者が快適に過ごせるように配慮されている。おむつを使用しない取り組みや外部評価での指摘については、事業所だけでなく法人全体で検討しサービス向上に取り組んでいる。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	基本理念及び好縁会生活作り10カ条を主軸に、管理者と職員はその意図とするところを共有し、実践につないでいる。朝礼時は全員で復唱し、一日の目標を立て、サービスを提供している。	法人理念の基に、毎年、「事業所の重点事業方針」を職員との話し合いで作成している。その後、本年度の事業目標を達成するために、職員は、各自の目標を設定し努力している。個人の目標と「重点事業方針」はそれぞれ達成度を評価し、次年度に反映させるような取り組みが行われている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入会し寄り合いに出席している。又、初めての親睦会にお誘い頂いた。町内清掃など地域の行事にも率先して参加し、地域の方々との接点を持てるよう心がけている。挨拶への気配りにも注意している。婦人部主催の交通安全・健康体操にも参加し、地域包括支援センターの皆様や町民の方々との交流を深めている。	町内会に加入し、職員は町内の寄合にも参加している。又、町内清掃には入居者も職員と一緒に参加している。入居者の散歩時には近所の人と世間話をし、町内のいろいろな情報を得ている。地域の方がクリスマスのイベントに参加したり、近所の保育園との交流も今後予定されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	町内会にて、体操教室を開催する予定。その場を借りて、地域の方に事業所の考えに基づいた支援の方法を説明する機会になるよう準備をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は二ヶ月に一度行い、事業所の状況やサービスの実際を伝えている。又、利用者様の日常の様子を写真やテレビ上映で見えやすく、参加者との話し合いの機会を設けている。消防署にご協力頂き、避難訓練を行った。ご意見やご要望は早急に対処・改善に努め、サービスの向上に心がけている。	運営推進会議には、家族代表として毎年交代で1年間出席し、地域代表者などと意見交換をしている。ホームの火災時の対応について考えようと、消防署の担当者を運営推進委員会に招き、避難方法や初期消火法などについて話を聞き、実際に出席者と一緒に入居者も避難訓練を行う取り組みが行われている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域行事や手伝い等がある際には連絡頂き参加していく方針。現段階では町内会発足後、間もないため、発信できていないが、町内会長様にお力添えを依頼している。	運営推進会議に出席している区の介護保険担当者や地域包括支援センター担当者に、事業所の介護支援状況について話をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止・虐待防止委員会を設置している。定期的な全職員が研修を受けている。絶対に行われないよう意識の徹底と周知を行っている。ケースに応じたミーティングを定期的開催している。県シルバーサービス振興会主催の身体拘束禁止・虐待防止研修に参加し、報告伝達する予定。玄関の施錠はしていない。</p>	<p>事業所内に、身体拘束廃止・虐待防止委員会を設け、月に1回委員会を開催している。委員会の報告書は職員に回覧し、内容を共有している。身体拘束に関する法人の研修会や外部の研修に積極的に参加し、情報を職員に伝えており、全員で身体拘束しないケアが実践されている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>身体拘束廃止・虐待防止委員会を設置し、定期的に会議を行い、内容は回覧し全職員で周知徹底し、防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見人制度を利用されている入居者様がおられ、連絡を密にとっている。又、後見人様には定期的に御面会を頂き、アドバイスやご要望に対処している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書や重要事項説明書に基づいて、入居者様、家族に説明している。変更が生じた場合も、その都度説明している。また、不安や疑問点について伺い、ご理解が頂けるよう説明をしている。迅速に誠意を持って対応できるよう心がけている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居者様に担当をつけ、要望や意見を表せるよう、個別にゆっくりとコミュニケーションをとり、担当以外の職員とも話し合いを重ね、意見や要望を見落とさないようにしている。ご家族の面会時には積極的に声かけを行い、話しやすい雰囲気作りを努め、意見交換を行い、運営に反映させている。</p>	<p>年に1回家族会を開催し、家族の要望を聞くようにしている。家族会には、毎回多くの家族が参加しているが、参加できない家族には、職員が事前に要望を聞いている。家族からの要望により、加湿器を事業所で購入し配置したり、空気清浄機を設置するなど、家族の意見が運営に反映されている。</p>	<p>家族からの要望は、家族会や、日常の面会時に把握するように努めているが、入居者に対する満足度調査を行い、より一層のサービス向上に反映されることを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度各フロアでミーティングを行い、業務に関する意見や改善点を話し合い、議事録を回覧し、全職員で共有している。また、参加できない職員については、疑問点や意見をあらかじめ提出してもらい、ミーティングで話し合う仕組みにしている。ミーティング以外でも気づいた事があれば、話し合い、対策・改善している。	各フロアで、月に1回、介護に関することや業務改善等について話し合いを行っている。欠席者には事前に意見を提出してもらい、職員全員の意見を反映するようにしている。職員の要望で、入居者の退院介助の際に、人員不足で介護に支障がでる場合には、他の事業所から応援に来てもらえるようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各職員が年度目標（チャレンジシート）を作成し、目標達成に取り組んでいる。又、評価表を用いて、各職員の努力や実績を評価している。四半期に分けて個人面談を行い進捗状況に合わせた課題を出し、意欲の向上へと努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内に研修委員会があり、内部研修（ステップアップ研修）が頻繁に行われている。外部研修に関しても、研修費補助や勤務内研修が認められ、参加しやすい体制が整っている。事業所内でも法人内の介護アドバイザーによる研修を月に一回行い、スキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修にて他事業所の方と意見交換する機会がもてた。当法人のホームの紹介を兼ね、関係事業所への訪問は行なっている。又、同業者からの見学・問い合わせも受けている。ネットワークづくりは未だ具体化されていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に管理者、フロアリーダー、看護師が訪問し、関係作りを開始している。可能な限りご本人様の不安や思いを伺い、少しでも不安を取り除けるよう努めている。担当職員を中心に全職員で関係作り取り組み、安心感の確保に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の不安やご要望など十分に話を伺い、誠意を持って受け止め、安心してサービスを受けていただけるよう努めている。ホームでの様子を写真入りのお手紙と記録に収め、毎月送らせて頂き信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	居宅支援事業所と協力連携をとり、他のサービス利用情報も可能な限りお知らせできるように努めている。アセスメント表を活用し、まず必要とされるサービスの見極めを行い、本人・ご家族との合意の上、支援へとつないでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	可能な限り共に過ごし、主体性のあるその人らしい時間を大切にしている。より深い共にある馴染みの関係を目指し、安全・安心の生活ができるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者様の体調や様子を細かくお伝えし、ご家族の不安や心配ごとを伺い、ケアの方向性を一緒に考え支援している。外出や外泊などのご協力もいただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方が来所された時には、話しやすい雰囲気を作ったり、会話の橋渡しをしている。又、馴染みの店や墓参り、美術館に行く機会を作り実施している。遠方からの面会者やご要望に応じて、一緒に撮った写真を送り、喜んで頂いている。	入居者の仕事仲間、戦友や旅行仲間が面会に来られた際には、話しやすい雰囲気を演出し、事業所から入居者の写真や手紙を添え、関係が継続するように支援している。また、入居者の家族の墓参りをしたり、馴染みの店で食事をしたりなど入居者の思いを実現するように取り組まれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事の席は利用者様同士の相性や話しやすさを考えて配置し、食事以外の時間にも孤立を防ぐため、家具の配置などリビングの環境に配慮している。又、より良い人間関係作りのため、職員がコミュニケーションの間に入り意思疎通の手伝いをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	継続的な関わりを必要とするケースは発生していない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各担当者が中心となって、本人の思いを十分に聞き出せるよう努めている。本人様が話された内容は記録に残し、全職員が共有できるようにしている。本人のこれまでの生活習慣に近づけるよう、情報を収集し、なじみの場所への個別外出支援も行っている。	入居者のこれまでの生活の様子や思い、心に秘めた思いは、日常の会話の中で発見されることが多く、それを聞き取った職員は、「発見シート」に書き留めるようにしている。そこに書かれた内容を職員が共有し、入居者の思いを実現するように努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族からの情報提供を基に、基本情報やアセスメントシートを作成・活用し、ほぼ把握できている。縁者の方々等からも、より詳しくうかがったり、生活場面や本人とのコミュニケーションの中からの把握にも努めている。本人の人生史も重視し、サービスに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常生活記録と個別記録を主として毎日の様子を記録し、全職員が把握し、心身の状況の変化があれば、明確に分かるよう連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>アセスメントを行い、ご本人とご家族と話し合いの上、課題抽出し、目標を見据えたケアプランを立てている。三か月後にモニタリングを行い、見直しをしている。各担当が考えたケアプランとモニタリングは全職員で回覧し意見やアイデアを出し合い、検討後、計画作成している。</p>	<p>各入居者には、それぞれ担当を決めケアプランの原案が作成される。その作成案を職員全員が検討し、ケアカンファレンスを行う。その際には、他の職員が把握した家族の要望も考慮し、担当者はケアプランを作成し、最終的にはケアマネージャーが修正し、現状に即した、全員参加のケアプランになっている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日常生活記録と個別記録を主な記録とし、心身状態の変化・プラン実施状況・生活状況・会話等を詳しく記録に残している。職員は記録を共有し、ケアプラン作成やモニタリングに反映させ活用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>既存サービス外と思われるニーズに対しても可能な限り対応している。個別外出支援をはじめ、外泊時など突発的な出来事が発生した場合他送迎を含む柔軟なサービスを展開している。ご家族指定の通院先送迎・後方支援医院への通院介助など実施している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>近くの中学校へ選挙に行ったり、お墓参りや馴染みだった店や場所に出かけている。近所に開店したお好み焼き店にてお好み焼きを注文し昼食に充当。今後も支援のご協力をお願いしている。南消防署からは消防・避難訓練を実施して頂き、指導・アドバイスを受けている。地域においての豊かで安全な暮らしを目指している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>運営母体のクリニックを主治医にされている利用者様がほとんどだが、本人様とご家族の希望で、他の病院を主治医にされている方もいる。いずれの場合も本人様とご家族の要望に沿った医療が受けられるよう、連携を図り支援している。</p>	<p>入居者の身体状況は、主治医が1週間に1回往診し把握している。それ以外に、本人の要望で今までのかかりつけ医に受診することもある。入居者に変化が生じた際には、看護師に報告し医師と連絡を取り対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に一度の訪問看護で健康管理が行われている。又、24時間いつでも連絡が取れる体制になっている。常時看護師と連携を図り、症状に合わせた適切な受診や看護を支援し、医療面での協働を保っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して入院生活を送っていた様、また早期の退院に向けご本人、ご家族、医療関係者と話しあう機会をつくり連携に努めている。入院実績のある病院からもご協力頂き関係づくりは良好と思われる。救急時にもスムーズな受け入れで対応して頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期指針と称し、ご家族・主治医・関係者が話し合い、方針を共有し、書面にて事前確認させて頂いている。本人とも可能な限り早期に話し合いの場を持つようにしているが、判断決定には及んでいない。対象の方にはどのように支援していくのか、職員は状況を把握・共有し、地域関係者と共にチーム支援に取り組んでいる。	事業所としては、家族からの要望があれば、看取り介護を行う方針である。重度化した場合には、「重度化した場合の対応に関わる指針」を家族に了承してもらい、看取り介護について医師と看護師、家族、職員が話し合いを行う。その後、状況に応じて話し合いを重ね、家族の要望に沿った終末期対応がされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	職員が定期的に研修で学び、急変時の実践・対応へとつないでいる。8月末、3名が府中町消防署にて普通救命講習を受け修了証を頂いた。伝達維持向上に邁進している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	グループホーム内での災害時避難訓練は定期的に行われている。運営推進会議を通し、防災・災害時の対策について、地域との協力体制を築いている。10月後半南消防署ご協力にて緊急時の研修を予定している。	災害時の避難訓練は定期的に行っている。今回初めて、運営推進委員会に消防署の担当者を招き、入居者は家族や地域の人々と一緒に、避難訓練を行った。今後も消防署と協力して災害防止に努める姿勢が伺える。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	尊厳の保持を念頭に置いた言葉かけや対応をしている。人生の大先輩として敬うことをケア場面にて徹底実践している。	人生の先輩として、敬うような言葉使いをするように徹底している。排せつや入浴に関する会話は、入居者が集うリビングではなく離れた場所で行うように心がけ、大声で話さないように配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人様の思いや感情を自由に表出できるような雰囲気作りを行い、コミュニケーションを図っている。その人らしい生活を支えるための知識・技術を学び、人的・物的両面から自己決定ができるよう工夫を重ねている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	可能な限りペースをあわせ、希望に添えるよう無理の無い生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月に一度訪問理美容が入っておりその方の好みの整容がされている。行きつけの美容院を利用されている方もいる。マニキュアを塗っておしゃれを楽しむこともある。いつでもご家族や友人に会ったり、外出できるように気を配っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニュー決めや盛り付け、配膳・下膳、食器洗いを入居者様に手伝って頂いている。職員も同じものを一緒に食べ、楽しい食卓の雰囲気作りをしている。また食事の時の座位やテーブルとの距離が適切になるよう細やかに支援している。	朝・昼食は、1週間分の献立を職員が考えるが、夕食については、入居者の要望を参考にし準備する。入居者の希望により、お好み焼き・回転すし・カラオケボックスでの食事などの外食を月に2回程度行っている。毎月、季節に合った行事食を用意し、食事を楽しんでもらうように取り組まれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士、看護師との連携を図り、連絡、相談を行い、栄養指導を受けている。食が進まない入居者様にはご本人様の食べたい物・飲みたい物を見つけ、提供している。水分摂取の重要性について、全職員が理解し、適切な量を摂取できるよう取り組んでいる。栄養補助食品も導入し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問歯科と連携を図り、口腔衛生に努めている。毎食後、入居者様の状態に合わせて口腔ケアの声かけ・介助を行っている。夜間は義歯をお預かりして義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄についての研修を行っている。排泄パターンや習慣を把握し、基本的におむつを使用しない。紙パンツもできるだけ使用せず、布パンツでの対応をしている。自立支援と並行し、気持ちのよい排泄を目指している。職員全員が「おむつを着用し排泄する」研修を行い、気持ちの良い排泄ケアへ活かしている。	紙パンツを出来るだけ使用せず布パンツにし、段階的におむつを外す排泄介護に向けて、法人全体で取り組んでいる。おむつはずしの研修や、実際に職員がおむつを着用し体験する研修を行い、排泄自立支援に取り組む努力がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	医師、看護師、管理栄養士と連携をはかり、便秘予防、対応、対策を行なっている。食後のトイレ誘導や水分摂取への気配り他、適度な運動を取り入れて対策している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。	可能な限り、希望に添った入浴の支援に努めている。	入浴の時間については、入所者の要望にできるだけ応じていて、毎日入浴したい希望があれば、対応している。入居者の仲の良い方同士で入浴したり、家族が訪問された際には、一緒に入浴してもらおうよう、入浴を楽しんでもらう取り組みがされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	入居前の生活スタイルを崩さない よう、起床時間をご本人様の要 望に合わせて、日中は体調にあ わせて、居室で休んでいただけ るよう支援している。夜間しっ かりと休んでいただくため、居 室の環境整備に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	職員は内服薬リスト・アセス メントシート・薬一覧表などを 活用して状況をほぼ把握して いる。職員間での連携を密にと り、症状の変化を見逃さないよ うにしている。服薬管理には意 識の徹底を図り、慎重な対応 をしている。医療との連携は密 に行われている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	生け花、習字、歌を歌うこと、 編み物など、入居以前にされ ていた趣味や得意だったこと をご本人やご家族からお聞き し、入居後も継続してできる よう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にあ わせて、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所 でも、本人の希望を把握し、 家族や地域の人々と協力しな がら出かけられるよう支援し ている。	個別支援として、墓参り、美術 館、お茶会、選挙、馴染みだ った飲食店など、個別性の強 い外出支援に取り組んでいる。 ご家族にご協力をいただいて、 定期的に外出される方もい る。	ホームの周りを散歩したり、食 事の買い物など日常的に外出 するよう心がけている。個人 の要望に沿った外出支援を することに重点を置き、墓参 り・孫の運動会の見物・野球 観戦・デパートでの買い物な どを実際に行っている。1泊 旅行やモミジ狩り等の遠出外 出も年に数回行い、入居者に 喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一 人ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	希望や能力に応じて、ご家族 の了承の上、ご本人に管理し て頂いている。必要に応じて 買い物ができるよう、ご家族 にも協力を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望に沿って、電話をかけて頂いたり、取次ぎを行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	花を飾るなどして季節感をだしている。カレンダーは日めくりにして日付がわかりやすいようにしている。馴染みの空間作りができるように、利用者様が使うものや家具の配置をあまり変えないようにしている。冬場は炬燵をだし、くつろげる空間を作った。	清潔を保つように、リビングやトイレ、浴室などの共有空間と個室の掃除を徹底している。窓から入る光をカーテンで頻繁に調節し、リビングのテレビの音も大きくならないように常に職員が配慮している。また、寒い時期には、こたつを出して、くつろげるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人一人のお気に入りの場所があり、気の合う方と楽しく過ごせるよう家具の配置など工夫している。又、利用者様の希望により家具や席の配置を変更することもある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内の家具や持ち物はご本人様の使いたれた馴染みの物をお持ちいただくようお願いし、なるべく以前のお住いに近い形で、安心して過ごして頂けるよう取り組んでいる。	入居前に自宅を訪問し、自宅の居室と同じ家具の配置にし、今までの馴染みの品や思い出深い物を持ち込んでもらい、安心して生活できる空間にするように配慮されている。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや居室に目印をつけ、わかりやすくしている。利用者様が使うものの配置を固定し、いつでも使用して頂けるようにしている。浴室は入浴台の配置を変えることで、利用者様一人一人に合った入浴方法にしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている		<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	基本理念及び好縁会生活作り10カ条を主軸に、管理者と職員はその意図とするところを共有し、実践につないでいる。朝礼時は全員で復唱しサービスを提供している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入会し、寄り合いには出席している。又、初めての親睦会に出席した。町内清掃など、地域の行事にも率先して参加し、地域の方々との接点を持てるように心がけている。婦人部の催しに参加した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	町内会から依頼を受け、体操教室を予定している。地域の方に事業所の考え方に基づいた支援の方法を説明する機会としたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は二ヶ月に一度行い、事業所の状況やサービスの実際を伝えている。又、利用者様の日常の様子を写真やテレビ上映で見ていただき、参加者との話し合いの機会を設けている。消防署にご協力頂き、避難訓練を行った。ご意見やご要望は早急に対処・改善に努め、サービスの向上に心がけている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	町内会の行事や手伝い等がある場合には連絡頂き積極的に参加していく。現段階では運営推進会議にて発信しているが、今後は町内会長様にお力添えを頂き拡大していく方針で今後の課題である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束委員会を設置し、全職員が正しいケアが身体拘束を防止することを理解し、実践している。玄関の施錠は夜間のみとなっている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止委員会を設置し、定期的に会議を行い、内容は回覧し全職員で周知徹底し、防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在、成年後見人制度を利用されている入居様はおられないが、お勧めしている方がいる。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書や重要事項説明書に基づいて、入居者様、家族に説明している。変更が生じた場合も、その都度説明している。また、不安や疑問点について伺い、ご理解が頂けるよう説明をしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居者様に担当をつけ要望や意見を表せるようにしている。又、個別にゆつくりとコミュニケーションをとり、担当以外の職員とも気軽に話し合えるようにしている。意見や要望を見落とさないようにご家族の面会時には積極的に声かけを行い、話しやすい雰囲気作りに努め、意見交換を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度各フロアでミーティングを行い、業務に関する意見や改善点を話し合い、議事録を回覧し、全職員で共有している。また、参加できない職員については、疑問点や意見をあらかじめ提出してもらい、ミーティングで話し合う仕組みにしている。ミーティング以外でも気づいた事があれば、話し合い、対策・改善している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各職員が年度目標を作成し、目標達成に取り組んでいる。又、評価表を用いて、各職員の努力や実績を評価している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内に研修委員会があり、内部研修（ステップアップ研修）が頻繁に行われている。外部研修に関しても、研修費補助や勤務内研修が認められ、参加しやすい体制が整っている。事業所内でも法人内の介護アドバイザーによる研修を月に一回行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修にて他事業所の方と意見交換する機会がもてた。名刺交換や見学し合ったりしている。当法人のホームの紹介を兼ね、関係事業所への訪問は行なっている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に管理者、フロアリーダー、看護師が訪問し、関係作りを開始している。可能な限りご本人様の不安や思いをうかがい、少しでも不安を取り除けるよう努めている。担当職員を中心に全職員で関係作りに取り組み、安心感の確保に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	ご家族の不安やご要望など十分に話を伺い、誠意を持って受け止め安心してサービスを受けていただけるよう、ホームでの様子を写真入りのお手紙と記録で毎月送らせて頂き信頼関係の構築に努めている。		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	居宅支援事業所と協力連携をとり、他のサービス利用情報も可能な限りお知らせできるように努めている。 アセスメント表を活用し、まず必要とされるサービスの見極めを行い、支援へとつないでいる。		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	可能な限り共に過ごし、主体性のあるその人らしい時間を過ごして頂けるよう努めている。 寄り添い共にある関係を目指している。		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	入居様様の体調や様子を細かくお伝えし、ご家族の不安や心配ごとを伺い、ケアの方向性を一緒に考えている。外出などご協力をいただいている。		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	大切にされてきた馴染みの方々が来所しやすい対応や雰囲気作りに努め、関係をたやさないよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様が孤立されないよう、職員が間に入りよりよい関係作りに努めている。役割を持っていただき良好な関係を保てるような環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	継続的な関わりを必要とするケースは発生していない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話の中から本人の意向、希望を聞き出す事が出来るように努めている。場合によっては職員を代え、思いを汲み取る努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族により提供された基本情報やアセスメントシートを活用することにより、ほぼ把握できている。又ご家族や本人からも話を伺い、現在の生活の中からの把握にも努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常の記録を毎日つけることで全職員が把握し、変わった様子があればわかるように連携に努めている。利用者様に担当をつけ、特に関わりをもち現状が把握できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ご本人、ご家族（キーパーソン）、必要な関係者が一同に集い、介護計画と、モニタリングを行なっている。意見やアイデアが反映される介護計画の作成に努めている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケアプランを実践出来るように努め、日々の何気ない一言や行動を記録し、職員間で情報を共有し、3ヶ月ごとの介護計画見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>可能な限りご本人やご家族のニーズに添えるよう務めている。今後も既存以外のサービスを柔軟な姿勢で提供できるよう、多機能化に取り組んでいく。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>ボランティアの方にご協力いただいたり、警察や消防にもご協力いただいている。（防災訓練など）</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人やご家族の意向に添った、適切な治療が受けられるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1度の訪問看護にて健康管理が行なわれている。(24時間体制でいつでも連絡が取れる) 常時看護師と連携をはかり、医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して入院生活を送っていただけ様、また早期の退院に向け本人、ご家族、医療関係者と話しあう機会をつくり、連携に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族、主治医、関係者が話し合い方針を共有しているが、本人との話し合いはできていない。終末期ケアをチーム一丸となり、どのように支援していくのか、職員は状況を把握、共有しチーム支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に研修で学び、急変時にも実践へとつなげられるよう努力している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	グループホーム内での災害時避難訓練は定期的に行われている。 運営推進会議を通し、防災、災害時の対策について地域との協力体制を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	尊厳の保持を念頭に置いた言葉かけや対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	その人らしく生活できるよう、自己決定を大切にし、自由に自己表現できるような雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	可能な限りペースをあわせ、希望に添えるよう無理の無い生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月に一度の訪問理容が入っている。季節感を損なわない身だしなみに配慮したおしゃれを支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の献立、買い物、準備、など可能な限り利用者様と共におこなう。時には外食をしたり、月に2回の定期パン屋訪問を導入している。個々に選んでいたパンはおやつに充当し、午後のティータイム楽しんでもらっている。職員も好みのパンを購入し一緒にお茶の時間を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士や看護師と連携をはかり、栄養指導を受けている。 摂取量の少ない方は好みのものを提供し、必要摂取量の確保に努めている。 ケアプランへも反映させている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯科往診が定期的に入っている。 毎食後口腔ケアを行なっていたり、必要な方には介助を行い清潔の保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄のパターンや習慣の把握に努め、トイレ誘導を行っている。 機能的低下に配慮し、布パンツにパットを使用している。紙パンツも極力使用しないように努めている。 自立支援と並行し、気持ちの良い排泄を目指している。職員自身がオムツを体験・体感しケアへとつないでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	医師、看護師、管理栄養士と連携をはかり、便秘予防、対応、対策を行なっている。 食後のトイレ誘導や水分補給、適度な運動などを取り入れて対策している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	可能な限り、希望に添った入浴の支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中は閉じこもりにならないよう注意しながら、自由に過ごしていただいている。昼夜逆転しないよう、午前中はゆっくり過ごして頂き、午後からは出来るだけ起きていただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は個々の内服薬リスト・アセスメントシート・薬一覧表などを活用し、状況をほぼ把握できている。服薬管理は慎重に行い症状変化を見逃さないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	役割を見つけ、日課として無理のないように行なって頂いている。月に一度の行事や散歩、ドライブなどで気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日々の散歩や買い物等個別支援を行なっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望や能力に応じて、ご家族了承の上ご本人に管理して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望にそって電話をかけていただいたり、取り次がせていただいている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居心地良く過ごしていただけるよう、環境に配慮した共用空間作りを心がけている。馴染みの空間作りが出来るように、可能な限り家具は動かさないなど、配慮している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	思い思いにソファでくつろいで頂けるよう気配りし、気のあった利用者さま同士で過ごして頂けるよう座席に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内の家具や持ち物等はご本人様の使い慣れた馴染みの物をお持ち頂くようお願いし、なるべく以前のお住まいに近い形で過ごして頂けるよう取り組んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの出来ること、得意な事、わかることを活かす生活を目指し、自信につながるように支援している。 自立した生活を安全に送って頂けるよう統一したケアを行い、人的・物的両面からの工夫を重ねる努力をしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>①ほぼ毎日のように</p> <p>②数日に1回程度</p> <p>③たまに</p> <p>④ほとんどない</p>
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<p>①大いに増えている</p> <p>②少しずつ増えている</p> <p>③あまり増えていない</p> <p>④全くいない</p>
66	職員は、生き活きと働けている	<p>①ほぼ全ての職員が</p> <p>②職員の3分の2くらいが</p> <p>③職員の3分の1くらいが</p> <p>④ほとんどいない</p>
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての利用者が</p> <p>②利用者の3分の2くらいが</p> <p>③利用者の3分の1くらいが</p> <p>④ほとんどいない</p>
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての家族等が</p> <p>②家族等の3分の2くらいが</p> <p>③家族等の3分の1くらいが</p> <p>④ほとんどできていない</p>

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふれあい段原

作成日 平成23年12月14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	ご家族からの要望は把握するよう努めサービス向上に向けて邁進しているが、入居者様からの満足度調査は行なわれていない。	入居者様の満足度を高める。	ご意見箱を設置しご家族・入居者様両面からの意見収集や吸収を行なう。職員全員で共有・ミーティング・モニタリング・評価、更なる質の向上に努める。	期間なし継続事項
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。